

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句  
令和二年一月度 入選句（投稿総数千八百四十六句・小中学投句数千四百十四句）

特選

選者 長町 誠司

教科書をすててみたいよ冬木立 愛知県高浜市内藤 匠汰(中二)

△三階から教科書投げて卒業す△という、ある教師が教え子のことを詠んだ句を思い出しました。教科書を投げた彼も、卒業後はその教師を恩師と仰ぎ、俳句の指導を受けていました。今はこの世に居りませんが、剣道有段者の彼の通夜には、大勢の剣道少年や、その親御さん、俳友が訪れ人柄を偲びました。

さて、この句ですが、教科書をすててみたいという心情と、目に見える冬木立を取合せた二句一章の形。葉を落とし寒々とした冬木立が作者自身を投影しているように思えます。次学年は受験生となる作者に、心よりエールを贈ります。

友だちのねぐせがぴよんと冬の空 愛知県碧南市鈴木 結菜(小二)

面白いところに気が付きました。ぴよんと立った寝ぐせに、登校前の友達達の行動が想像できませす。

季語は冬の空。誰もが布団の中に一分一秒だつて長く入っていたい季節。慌てて飛び起き、身じたくもそこそこ家を出た友達達の寝ぐせを、「ぴよんと」という親しみを込めた表現することができました。

お年玉全部貯金に入れられる大垣市 清水 もも(小六)

私だけでなく、多くの小学生が共感するに違いありません。無駄遣いを防ぐためだとか、将来のためにとか親は色々言いますが、少しぐらい自分の好きに使いたいなあと、私も子供心に思つたものです。

「全部」という語からは、作者の心情が窺えます。実体験の言葉は俳句だけでなく、作文やスピーチなど、人を引き付ける力があります。

秀逸

朝起きて後悔だけの炬燵の中 加茂郡川辺町 山田 祈星(中二)

クリスマスマス輝く街に一人の私 加茂郡川辺町 石田 陽菜(中三)

純白の雪は虚しく時を待つ 加茂郡川辺町 後藤 蓮誠(中三)

雪結晶触れゆく恋模様 加茂郡川辺町 三森 奈緒(中三)

色なくし山は静かに眠りにつく 加茂郡川辺町 木下 愛理(中三)

竹馬にいつか乗りたいかっこよく 大垣市 早野 莉央(小三)

初写真ちよっぴり母に近づいた 大垣市 岡本 大岳(小五)

冬の風木とプロレスをしているの 大垣市 鹿野 涼那(小六)

ひこうきはつひに向かつてとんでゆく 大垣市 平野 康介(小三)

制服の採寸をする冬休み 大垣市 生駒 七夢(小六)

入選

雪つもる日本のふじさん宝物 加茂郡川辺町下谷 響生(中二)

雪道に足跡見つけ踏んでみる 加茂郡川辺町田原 菜々美(中二)

白い雪色を知らずに降ってくる 加茂郡川辺町桜井 鈴杏(中二)

冬休み短い短い冬眠だ 加茂郡川辺町木下 彩音(中二)

十二月母のビールが酒へと変わる 加茂郡川辺町肥田 春渡(中二)

寂しげに日に日に溶ける雪だるま 加茂郡川辺町山崎 美琥(中二)

かまくらができるくらいの雪の量 加茂郡川辺町大澤 飛雅(中三)

冬景色つもった雪が針山のように 加茂郡川辺町河村 真祐(中三)

冬の風枯れ葉は静かに油断した 加茂郡川辺町後藤 蓮誠(中三)

コロコロと姉が転がす雪だるま 加茂郡川辺町安江 桃(中三)

入選

登校中かわいた風が不安をさそう 加茂郡川辺町小菅 佑弥(中三)

冬休み必死に作曲僕の夢 愛知県西尾市山際 康介(中二)

ホームランフェンスをこえてかれはちる 大垣市 衣斐 彩乃(小五)

さむい日にいきをはいたら雲になる 大垣市 安どう 煌けん(小二)

初富士をテレビの画面の前で見る 大垣市 伊藤 煌介(小五)

五線譜のような雲間に初日射す 大垣市 長坂 うらら(小六)

かきぞめをきれいにかくよたてにかく 大垣市 重久 拓真(小三)

おおそうじいろいろなものかすてられる 大垣市 前川 政季(小三)

大そうじ窓ふき担当がんばるぞ 大垣市 岡田 真依(小六)

かごの中温かい物ふえる冬 大垣市 伊藤 希彩(小六)

選者吟

御神籤の値段まちまち初詣

せいじ